

人権教育は、全ての教育の基本 ～人権教育に係る研究実践から～

人権同和教育課

文部科学省人権教育研究指定校 南種子町立西野小学校の実践

西野小学校は、令和元年度から2年度にかけて、「自分が好き、友だちが好き、学校が好き、西之が好き～自尊感情の育成・自己肯定感の高揚をめざして～」をテーマに、学級や授業づくりを中心に実践研究を行ってきました。その実践の一つとして、「共感的・支持的な人間関係を育むための学級経営を行う」ことをねらいとして取り組んだ「学級の歩み」について紹介します。

第〇・〇学年「学級の歩み」 (令和2年度)	
〇 大切にしたい学級集団のよさ	■ 取り組むべき学級の課題
<p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> 学年関係なく、仲良くお話をしたり遊んだりする姿が見られる。 素直で明るい。(挨拶・返事がいい。) <p>② 子どもの思い・担任の思いをつなぐ。</p> <p>担任の思い・児童生徒一人一人が居心地のよさを感じる学級、自分に自信を持ち、いろいろな事に挑戦する学級。</p> <p>学級でとくみたいこと・とりこんだこと</p> <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 友達のよさやよりよい関係について考える活動。 ② 自他のよさを認め合う活動。 →① 保護者に協力してもらい、児童のよいところをアンケートに書いてもらった。 ② なのはな学級の子供たちや学習・生活について話をした。(なのはな学級の保護者の思いを手紙に書いてもらった。) ③ 学級のみんなのよいところを伝え合い、これからのよき学級にしたいか考えた。 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 人権集会を行った。 ⑤ 人権劇「教えて、仲良し名人さん」を通して、あなたメッセージとわたしメッセージについて、考えた。 ⑥ 人権アンケートの結果や人権標語の発表を行った。 <p>次年度につなげたい学級の良さ・課題</p> <p>〇 素直で明るく、何事にも一生懸命に取り組む様子が見られた。相手のことを考えて、気持ちいいことを教えてあげたり、思っていることで手伝ってあげたりしていた。</p>	<p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いが気になる。 <p>① 気になる子どもを指導の中心に据えるようつなぐ。</p> <p>手の意見を聞く。自分の意見を話す児童がいる。
<気になる子ども>〇年(〇さん、〇さん)〇年(〇さん、〇さん)</p> <p>子どもたちの様子</p> <p>① 毎日一緒に過ごしている友達でも、知らないよいところがあることに気付いていた。 「〇さんこれができるの?!」など</p> <p>② なのはな学級の児童に、積極的に話しかける姿が見られた。</p> <p>③ ③ 自他の大切さをつなぐ(仲間づくり)。</p> <p>ためになにかをしようとする行動が多く見られるようになってきた。また、お友達のよいところをたく</p> <p>④ 全教育活動を通して、子ども同士をつなぐ。</p>

【「学級の歩み」シート】

「学級の歩み」は、「つなぐ」という視点から、学級が取り組んできたことを記録するとともに、子どもの言葉をもとに、子どもがどのように学級を見つめているかを記録したり、担任の学級づくりへの思いを記録したりして、教育活動へ生かせるように工夫しています。

文部科学省人権教育総合推進地域事業 指定地域 日置市の実践

日吉地域にある日吉小学校、日吉中学校では、平成30年度から令和2年度にかけて、「個性を認め合い、豊かな仲間づくりをめざして～小中一貫教育を通じた、学校・家庭・地域との連携・協力による取組～」をテーマに、実践研究を行ってきました。日吉地域では、小中合同の人権教育推進委員会を開催し、「豊かな仲間づくり」を推進するための職員研修や児童生徒の教育活動に関する企画・運営等を協議して実践につなげました。

取組の一例として、宮丸太鼓店の宮内礼治氏による実演を取り入れた講演や中央大学人文科学研究所の高橋聡美客員研究員による児童生徒へのワークショップを行ったり、人権感覚を高めるための小中合同の職員研修を実施したりしました。また、家庭や地域に対しては、児童生徒の標語が入った「人権カレンダー」や「人権ポスター」を配布し、人権教育への関心を高めるようにしました。

【人権カレンダー】

こうした取組により、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じる児童生徒の割合が高くなり、また「自分にはよいところがある」と考える児童生徒の割合が「全国の平均と比べて高い」という成果が得られました。

県研究指定「子どもの人権プロジェクト推進校」の実践

令和2年度は、18校(小学校10校、小中学校2校、中学校4校、県立学校2校)を指定し、「チーム学校でつくる人権教育」に取り組むための体制づくりの充実を図る実践研究に取り組んできました。各学校の実践については、県のホームページに掲載しますので、ぜひ自校における人権教育の充実に役立ててください。

◇ 鹿児島県のホームページから「子どもの人権プロジェクト」で検索